

た　じ　み　し　　お　お　は　た
多治見市 大畑センター
し　ん　さ　い　し　ゅ　う　し　ょ　ぶ　ん　じ　ょ　う
新最終処分場



地球を「まもる」くん





地球を「まもる」くん

新最終処分場の概要

この最終処分場は、三の倉センター（ごみ焼却場）で
ごみを焼却した時に出る飛灰に薬品とセメントを加
えて固化したものを、専用に埋め立てる施設です。
また、水を出さない・入れないをコンセプトに建設
しており、埋立箇所に屋根を付け、水処理施設はあり
ません。



三の倉センター

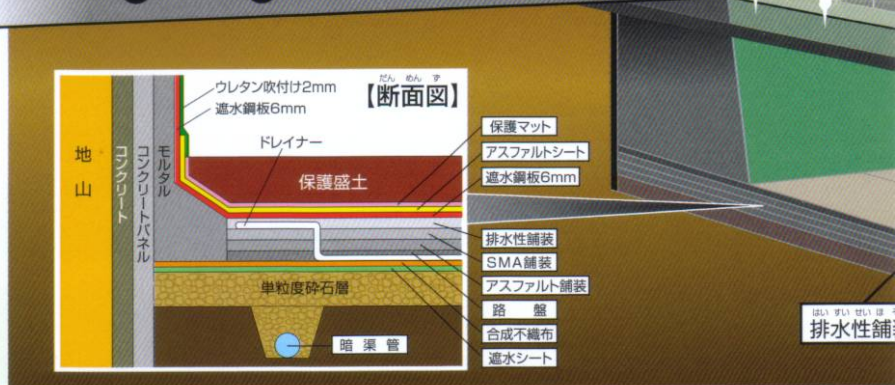


ごみ焼却



※ 飛灰

ごみ焼却したときに発生する細かい灰です。
三の倉センターから出る飛灰の成分は、主に
亜鉛・鉛等の重金属です。



多治見市の最終



覆蓋構造物（建物）は、雨水等の浸入を
防ぎ、また、外部への粉じん等が出るのを
防ぎます。



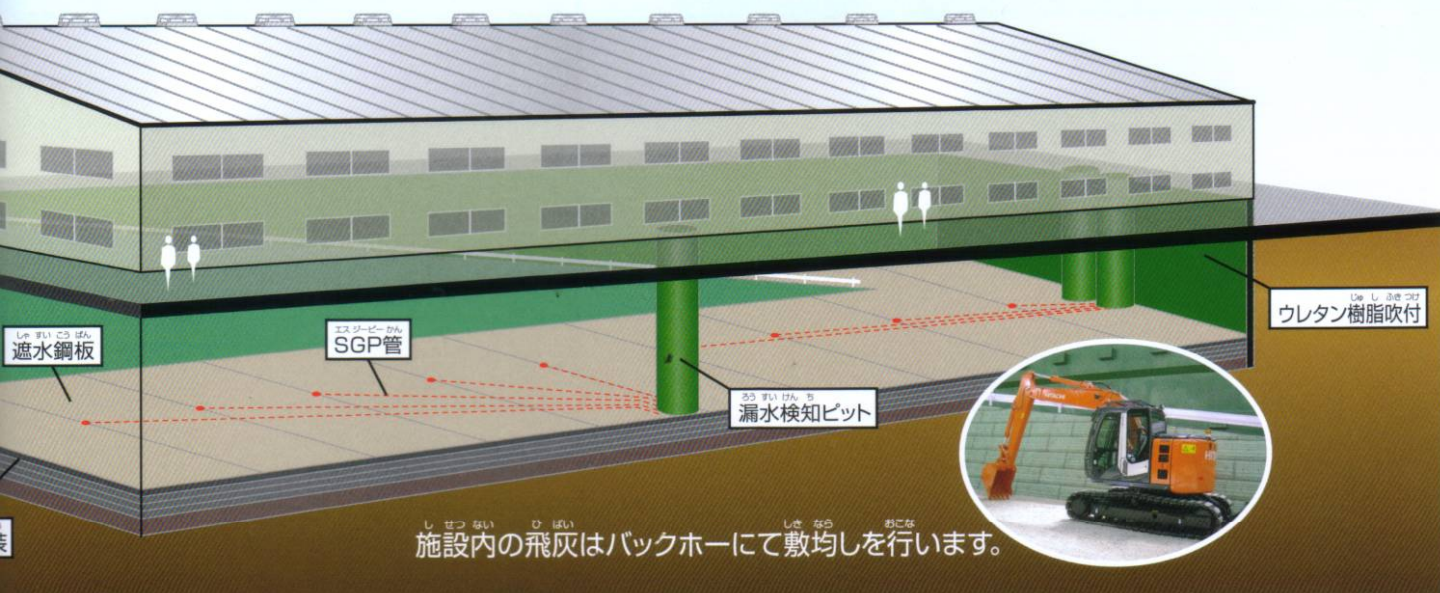
鋼板にて遮水しているので、通常の最終処分場
に使われるゴムシートと違い、鋼板に穴が開い
たり、紫外線劣化による破損がなく安全です。



接合部は、船を造る
合を行い、漏れたり・
第3者による確認検査



飛灰を埋める箇所の大きさは、全長142m、幅30m、深さ8.5m～9.5mです。
埋立箇所に鋼板遮水システムを採用しています。鋼板遮水システムとは、鋼板を遮水シート代わりに使い、埋立物が外に漏れないようにする方法です。加えて埋立箇所の壁面には防錆処理として厚さ2mmのウレタン吹付け（グリーン色）を行い、床面には厚さ4mmのアスファルトシートを敷設、更に保護盛土により、遮水能力を長期的に確保しています。



終処分場の特徴



ときと同等の溶接接合がなされています。



鋼板の下には、水を通さない舗装（SMA舗装）を行い、万が一、鋼板に穴が開いても地下に浸透しないようにしています。



漏水検知ビット



鋼板に穴が開いて水が漏れた場合、SGP管により漏水検知ビットに集まるので検知器により、すぐに修繕箇所が発見できる仕組みになっています。

位置図



多治見市 大畑センター 新最終処分場

〒507-0817 多治見市大畑町大洞48-35

TEL.0572-23-2926

施設内容

最終処分場の形式	管理型最終処分場(クローズドシステム)
最終処分場の容量	35,000m ³
最終処分場の埋立面積	4,260m ²
最終処分場の建築面積	5,164.45m ²
供用開始年月日	平成22年 6月～
工事期間	平成19年度～平成21年度
総事業費	1,828,641千円
財源内訳	
国庫補助金	505,717千円
県交付金	100,000千円
地方債	946,200千円
市費	276,724千円

工事監理	株式会社興栄コンサルタント
新最終処分場本体工事	岐建・吉川・加藤特定建設工事共同企業体
周辺施設整備工事	井戸建設株式会社
同上	河村電気商会
同上	日章産業株式会社
同上	丸栄工業株式会社
同上	株式会社吉川組
	(五十音順)